

1日目(11月21日)セッション概要-II

MS-1 国際有人宇宙プロジェクトの技術の伝承 13:10 国際宇宙ステーション「きぼう」での取り組み

宇宙航空研究開発機構 理事 長谷川 義幸
宇宙航空研究開発機構 技術領域リーダー 伊藤 剛 **C&P**

【セッション概要】

日本は、宇宙先進5極が開発した国際宇宙ステーションに、独自の設計で開発した実験棟「きぼう」で参加しており、その巨大な宇宙システムの運用の一端を担っている。

高度で複雑な「きぼう」システムの運用には、設計思想やノウハウを熟知したシステム技術者が必要であるが、世代交代やコスト制約があり体制の維持は容易ではない。

実機が遠く離れた宇宙にある困難な条件下で、次世代への技術伝承を進めている「きぼう」プロジェクトでの取り組みを紹介する。

【講演者略歴】長谷川 義幸:昭和51年宇宙開発事業団入社。平成7年より国際宇宙ステーション(ISS)開発に参加。平成23年8月より現職。
伊藤 剛:平成9年同入社。実験棟「きぼう」のシステム開発、軌道上組立・起動の全体とりまとめ、ISS計画の多極間調整に従事。

MS-2 統制型マネジメントの終焉 14:15 もう一度ジャパンイズNO.1を取り戻すために

株式会社インテカー
代表取締役社長 齋藤 ウィリアム 浩幸

【セッション概要】

上司の号令のもとでの一糸乱れぬ行動は、グループワークであってチームワークではない。従来の仕組みの中で対応してきた人物が1人で頭を捻っても新概念を生み出すことは難しい。新価値創造のためには、今まで積極参加していない人の意見が必要である。メンバー1人1人の個の力を発揮させられるチームワークとは何か。

リスクをマネジメントしながらチャレンジイノベーションを起こす仕組み作りについて、現場の具体的な悩みを伺いつつディスカッションを通じて一緒に解決する。

【講演者略歴】UCLA医学部卒。高校時代にソフトウェア会社設立。指紋認証暗号システムの開発で成功した後マイクロソフト社に売却。2005年拠点を日本に移してインテカーを設立。2011年世界経済フォーラム「ヤンググローバルリーダー」に選出。国会事故調最高技術責任者。国家戦略会議委員。

MS-3 行動観察とは? 15:35 「事実」基点の潜在ニーズ・リスク・スキルの抽出法

株式会社エルネット 代表常務取締役
インタラクティブ・マーケティング事業部長 磯 龍介

【セッション概要】

行動観察とは、アンケートやインタビューでは引き出せなかった、無意識下のニーズやリスク、暗黙知にアプローチできる手法として、近年、商品・サービスの開発や企画に活用されている手法である。次のような内容で、行動観察が人間工学や認知心理学、エスノグラフィーなどの科学的知見を取り入れた、新しい価値を作り出す手法であることを紹介する。

- ・なぜ行動観察なのか
- ・行動観察の特徴とビジネスにおける有効性
- ・行動観察の活用シーン
- ・観察・分析の視点
- ・事例のご紹介

【講演者略歴】1983年:大阪ガス株式会社入社。2001年:株式会社エルネット企画管理部長。2007年:同社インタラクティブ・マーケティング事業部長。2005年の行動観察のビジネス展開の初期から携わる。2009年~「行動観察力育成講座 入門編」講師



FI-1 小売業におけるライフログ活用 13:10 人と“コト”“モノ”との出会いを解き明かす

富士通株式会社 経営戦略室新規ビジネス開発室
シニアディレクター 大久保 龍一

【セッション概要】

消費行動の多様化が進む中、消費者が残すデジタル足跡も量、スピード、複雑性ともに増加の一途である。小売業では、この手元の情報を読み解きビジネス変革に繋げられるかは、重要な経営課題である。

本取り組みは、直感や仮説の客観化のための試行錯誤の場として情報可視化基盤クラウドサービスとワークショップによる可視化最適化サービスを活用し、現場部門の方々と消費行動を読み解き営業施策に至ったものである。事例を中心にビッグデータ時代の情報活用の現状を紹介する。

【講演者略歴】1984年、富士通株式会社に入社。百貨店業向けの店舗から基幹系に至るソリューション開発と全国でのソリューションビジネス展開に従事。2011年より現職。小売業向けライフログ分析(顧客消費行動分析)サービスの新規ビジネス事業化を推進。

FI-2 オムニチャネル時代のセブン&アイネット戦略 14:15

株式会社セブンネットショッピング
システム本部 本部長 飯田 克也

【セッション概要】

コンビニ、スーパー、百貨店、専門店など、あらゆる流通の業態を擁するセブン&アイグループ。

全国16,800のリアル店舗や商品開発力など、小売として培ってきた資産をネットと融合することにより、新しい価値創造を目指しています。

【講演者略歴】日本アイ・ビー・エムに入社後、プロジェクトマネジメント等を担当。2010年より現職にて、セブン&アイグループのネット戦略に従事。

FI-3 流通BMSが流通企業を強くする 15:35 消費財流通業界の新たな業務改革の潮流

一般財団法人流通システム開発センター
流通システム標準普及推進協議会 事務局長 坂本 尚登

【セッション概要】

毎日の生活に欠かせない多種多様な商品を、安全に、スピーディに消費者に届ける消費財流通業界。その裏では、日々膨大な量の荷物と情報の処理が行われている。この処理に欠かせないのがEDIだが、長年使われてきたレガシー手順(JCA手順)からインターネット対応の新たな標準EDI「流通BMS」によって、業務の改革が静かに進行している。

本セミナーでは、流通BMSの特徴を解説するとともに、その導入で業務改革を果たした小売業や卸売業のさまざまな事例を紹介する。

【講演者略歴】1979年 財団法人流通システム開発センターに入所。2006年6月研究開発部長。この間、消費財流通業界のPOS、EDI、QR、生鮮EDI、SCM等に幅広く関わり、流通BMS策定事業でもプロジェクト全体のとりまとめを行う。2012年4月に流通BMS協議会事務局長に就任、現在に至る。



PS-1 模擬プロジェクトによるPM教育 13:10 産業技術大学院におけるPBL方式のPM教育事例

産業技術大学院大学 教授 酒森 潔
日本オラル株式会社 ディレクター 石井 浩靖 **C&P**

【セッション概要】

プロジェクトマネジメントの実践力(コンピテンシー)はどのように教育すればよいのであろうか。よく、実践力は現場で難しい状況に何度も直面することで身につくものであると言われている。

しかし、教育の場での第1歩は、正しいプロジェクトマネジメントの方法を教え、正しい体験をさせることである。

短い期間で実践力を高めるには、プロジェクトの質に左右されるOJTではなく、限られた期間に多くの実践経験を体験できる模擬プロジェクト実践型のPBL学習が大変効果的である。

【講演者略歴】酒森 潔:日本アイビーエムでの30年間のプロジェクト経験とともに、AIITの教授として標準的な体系に基づくPMの講義を担当。
石井 浩靖:日本アイビーエムから日本オラルへ移り、SIBIビジネスの立ち上げを支援した。また、AIITの認定登録講師やPBL評価委員としても活躍中。

PS-2 オフショア開発マネジメント成功のカギ 14:15 ブリッジ・エンジニアから見た効果的なオフショア開発マネジメント

SoftDEL Systems Private Limited
Program Manager SUKUMAN THING TAMANG

【セッション概要】 ※講演は日本語で行います。

オフショア開発では、通じるコミュニケーションと多様性を活かすことが求められます。そこで、ブリッジ・エンジニアの経験からオフショア開発の成功率を高めるために必要な、下記プロジェクトマネジメントの留意点を解説する。

- ①外国人社員から見た、日本企業の素晴らしいところ・理解できないところ
- ②外国人社員から見た、日本企業に求める改善点と改善案
- ③今まで日本企業で行った、ITプロジェクト活動(事例)
- ④外国人社員が考える、多様性を活かすITプロジェクトチームのあり方

【講演者略歴】1999年ネパールのトリバン大学商学部卒業。2007-2013年 SRM Technologies Private Limited、カスタマー・リレーションシップ・マネジャーとして日本とインドの橋渡し役を行い、プロジェクト企画から開発、導入、運用に従事。2013年6月からSoftDELシステムズにてプログラム・マネジャーとして活躍。

PS-3 PM教育における「新7つの誤解」 15:35 教育の投資効果を阻む陥りやすい錯覚

株式会社ピーエム・コンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】

2003年にプロジェクト管理の「7つの誤解」を本シンポで発表し、10年が過ぎたが誤解が解けたとは言えない。最近ではPM教育に関しても誤解が蔓延している。

- ①ヒューマンスキルを強化すればプロジェクトチームは機能する
- ②リスクを洗い出せば発生時に対応できる
- ③グローバル人材育成には英語教育を優先すべき
- ④PM知識を得れば現場で使える
- ⑤緊縮予算下では品質管理・技術研修を優先させる
- ⑥スーパーPMを養成すればプロジェクトは成功する
- ⑦優秀な受講者は有能な要員、など。

【講演者略歴】UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年PMP®取得。97年株式会社PMコンセプト設立。近著に「問題プロジェクトの火消し術」「バンダー・マネジメントの極意」

PS-4 ワンランク上のPMをめざして 16:40 制約にとらわれず幅広く活躍できるPM人材

日本セルロース株式会社
技術顧問 向後 忠明

【セッション概要】

昨今、プロジェクトとして求められる対象は多様化、複雑化、広域化、そしてグローバル化している。

このような環境下でのPMに求められるものは、幅広い視野を持ち、異質な知の融合や新たな知の組み換えができ、そして求められる対象に柔軟に対応できるプロジェクトマネジメント能力です。

すなわち、制約から自らを解き放ち、社内に限らず、他の業界、そして海外におけるプロジェクト等、あらゆる業界で活躍できるPMには何が必要かを紹介する。

【講演者略歴】1968年千葉大(工)卒日揮株式会社入社、DE本部、国際事業本部で各種海外PJに参加。1988年NTTI移籍、各種PJでのPM、NTT海外投資事業会社での役員、NTTコムPMアドバイザー他PMAJ理事、IPA PMコミュニティー委員。著書:「ワンランク上のPMを目指して」他